

[成果情報名]山梨シャモの新系統を利用した甲州頬落鶏の能力

[要 約] 山梨シャモの新系統を甲州頬落鶏の母系の父系として利用することで、甲州頬落鶏の出荷時の発育体重が3.9%高くなるとともに斉一性が高まる。また肉質については腹腔内脂肪が低い傾向にあり、味分析については現在の甲州頬落鶏と遜色がない。

[担 当] 山梨県畜産酪農技術センター・研究管理幹・松下浩一

[分 類] 技術・普及

[課題の要請元]

部門別農業代表者、山梨県養鶏協会、畜産普及センター

[背景・ねらい]

山梨の銘柄鶏（甲州地どり・甲州頬落鶏）を生産するにあたり、昭和63年度から閉鎖群育種をしたシャモ（山梨シャモ）を用いているが、現在の山梨シャモは近交係数が17%以上（G17世代）となっており、今後の継続交配により種鶏の能力低下が懸念される。そこで、平成28年度に外部よりサツマ種を導入し、山梨シャモの新系統の作出を行っているところである。今後、銘柄鶏の生産は新系統の山梨シャモに移行することとなるため、甲州頬落鶏生産における生産性や肉質等の能力比較を行う。

[成果の内容・特徴]

山梨シャモの新系統（P系）を用いた甲州頬落鶏（RCPWR）と現在の山梨シャモ（Y系）を用いた甲州頬落鶏（RCYWR）を比較した結果、

1. 84日齢時の体重は雄ヒナが3.2%、雌ヒナが4.7%有意に高くなる（図1）。
2. 出荷時の体重のバラツキが小さくなる（図2）。
3. 出荷時の腹腔内脂肪蓄積率が12.5%低い傾向にある（図3）。
4. 味覚センサーによる味分析でブロイラーのモモ肉と比較では、新旧シャモいずれを用いてもほぼ同様の結果であることから、食味性に差は認められない（図4）。

[成果の活用上の留意点]

1. 山梨シャモの新系統を用いたことで甲州頬落鶏は発育性が優れることから、現在の育成日数の見直しが必要になる

[期待される効果]

1. 山梨シャモの新系統を用いることで甲州頬落鶏は現在のヒナよりも発育性に優れるとともに肉質は遜色がないことから、今後山梨シャモの新系統を利用できる。

[具体的データ]

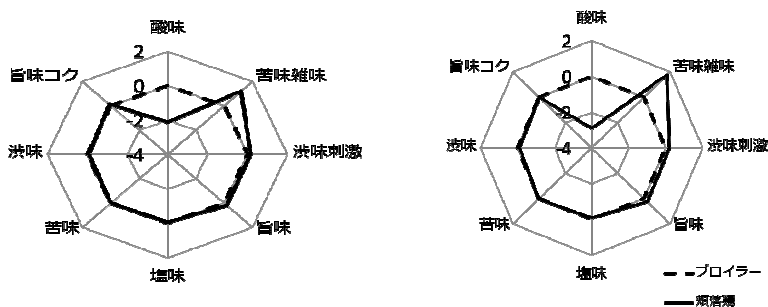
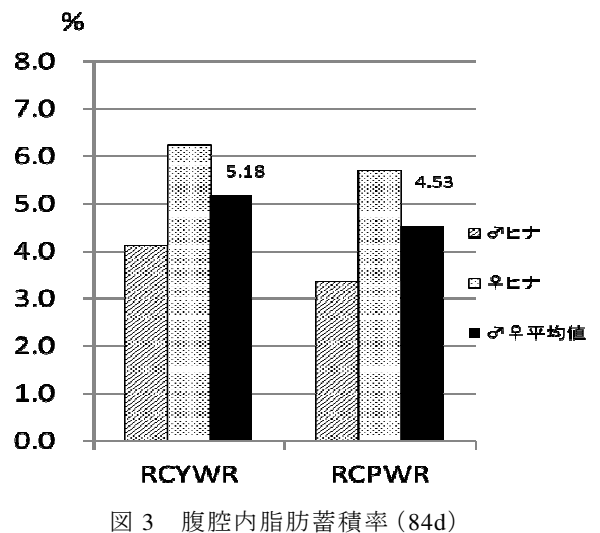
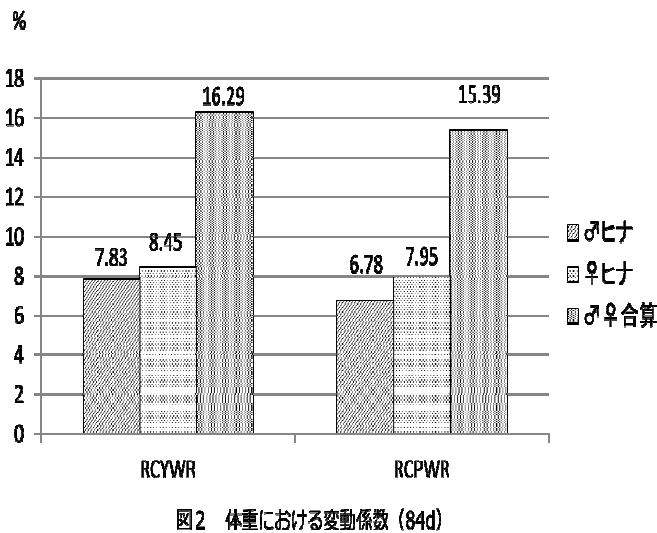
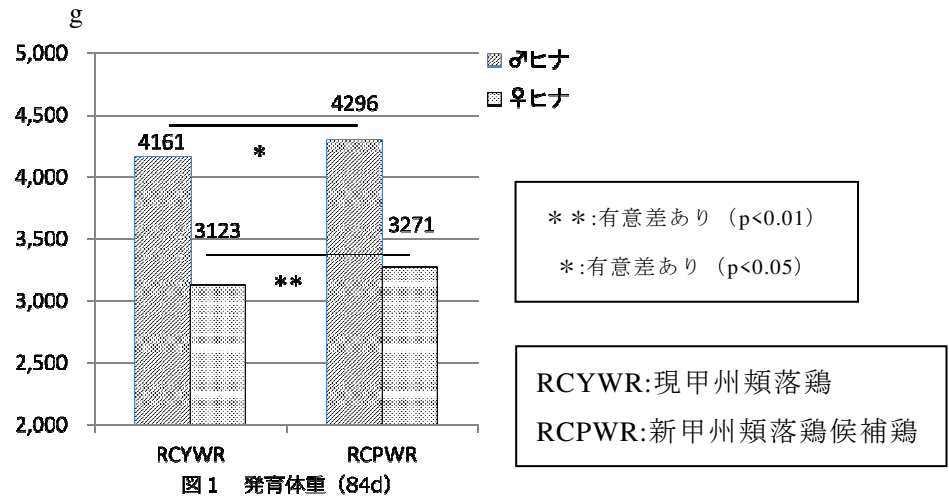


図4 味分析結果 (プロイラーとの比較) 左: RCYWR 右: RCPWR

[その他]

研究課題名: シャモの維持と増殖

予算区分: 県単

研究期間: 2019~2020年度

研究担当者: 松下浩一、藤村洋子、菊嶋敬子